

東郷町 地域福祉に関する 団体・支援者ヒアリングシート調査 【調査結果報告書】

目次

1	調査の目的.....	1
2	調査方法及び回収結果.....	1
3	報告書の見方.....	1
4	調査結果.....	2
	（1）活動状況について.....	2
	（2）組織・団体との連携について.....	10
	（3）今後の地域福祉について.....	15

令和7年2月

東 郷 町

1 調査の目的

「第2次東郷町地域福祉グランドデザイン」策定の基礎資料とするため、町内の団体・支援者25人を対象に地域福祉に関するヒアリングシート調査を実施しました。

2 調査方法及び回収結果

調査方法：郵送配布・郵送回収もしくはWEB回答

調査期間：令和6年11月11日～11月24日

配布数：25件

回収数：24件

回収率：96.0%

3 報告書の見方

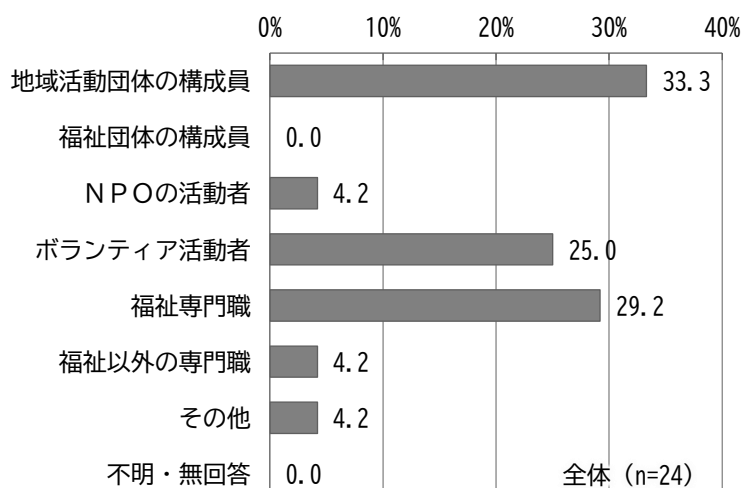
- 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答がない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

4 調査結果

(1) 活動状況について

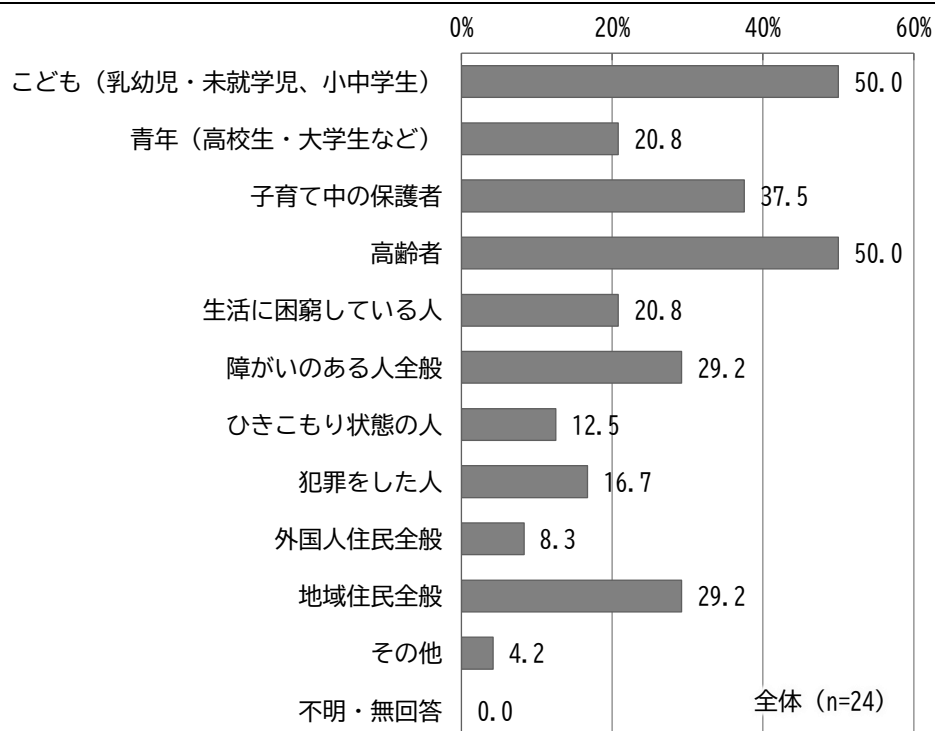
問1 あなたは次のどれにあてはまりますか。(単数回答)

「地域活動団体の構成員」が33.3%と最も高く、次いで「福祉専門職」が29.2%となっています。



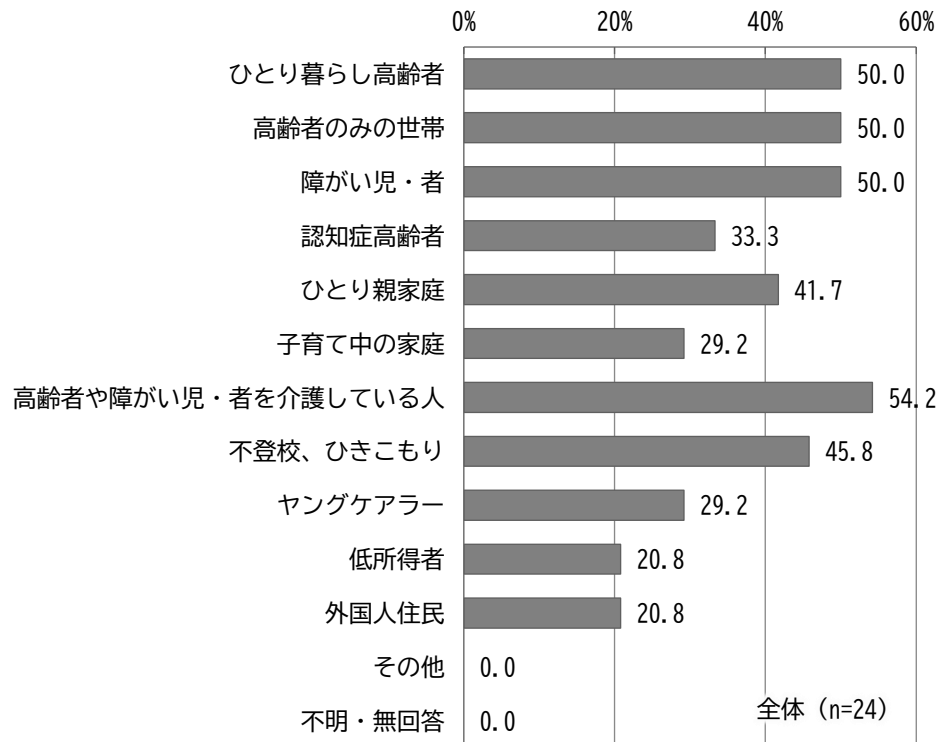
問2 主に活動でかかわる人または支援対象者は次のうちどれにあてはまりますか。(複数回答)

「こども（乳幼児・未就学児、小中学生）」「高齢者」がそれぞれ50.0%と最も高く、次いで「子育て中の保護者」が37.5%となっています。



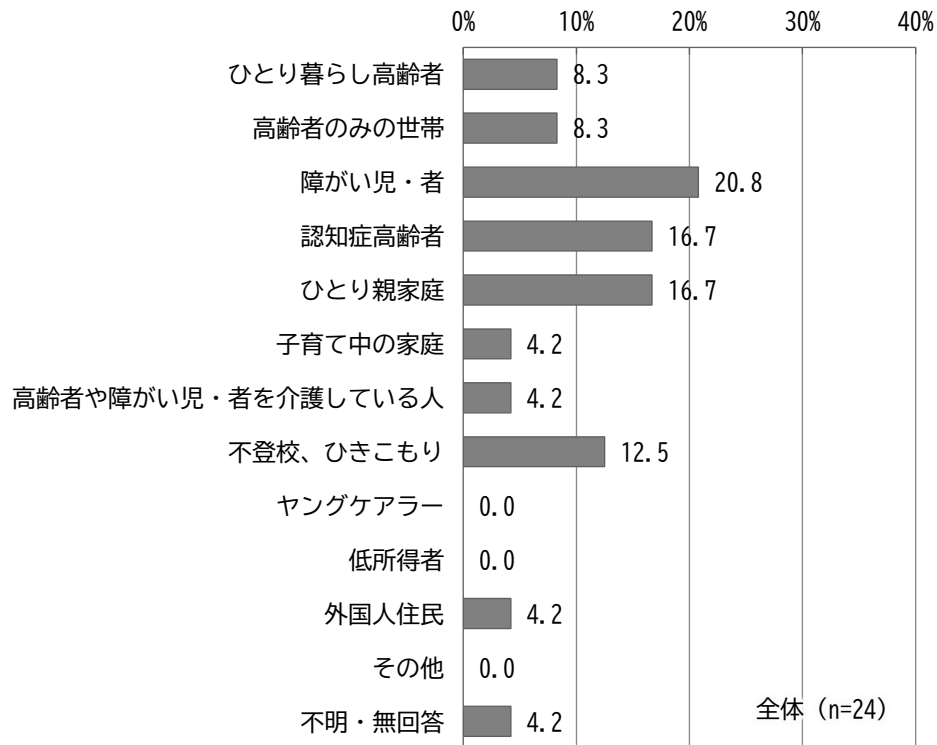
問3 | 全体 あなたが活動する地域において、これから特に支援が必要だと思う対象は誰ですか。(複数回答)

「高齢者や障がい児・者を介護している人」が54.2%と最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者」「高齢者のみの世帯」「障がい者・児」がそれぞれ50.0%となっています。



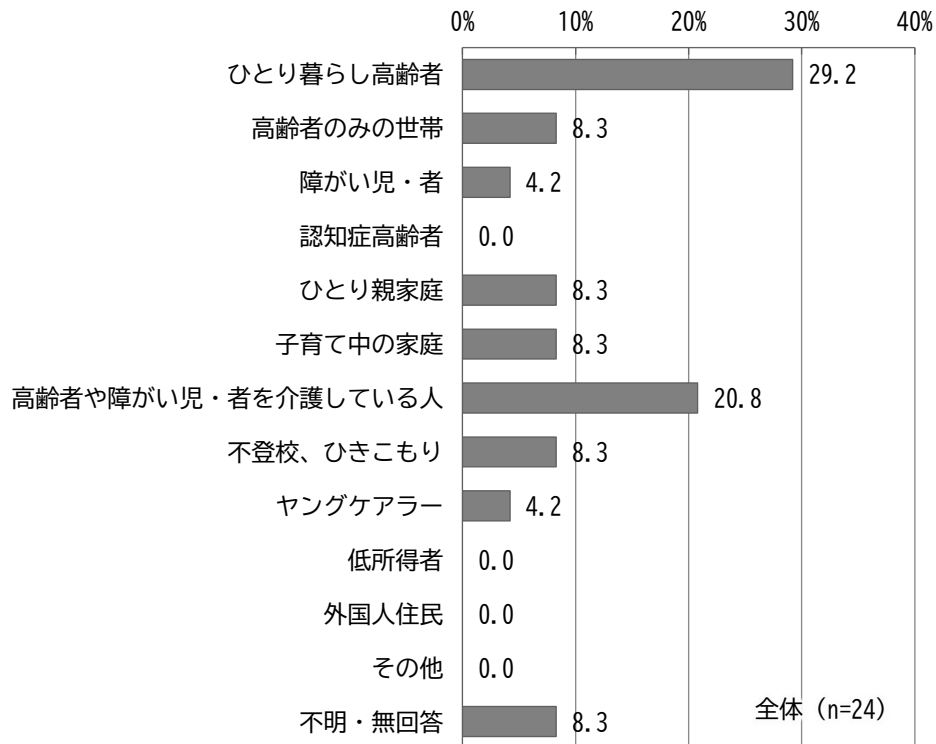
問3 | 第1位 あなたが活動する地域において、これから特に支援が必要だと思う対象は誰ですか。(単数回答)

「障がい児・者」が20.8%と最も高く、次いで「認知症高齢者」「ひとり親家庭」がそれぞれ16.7%となっています。



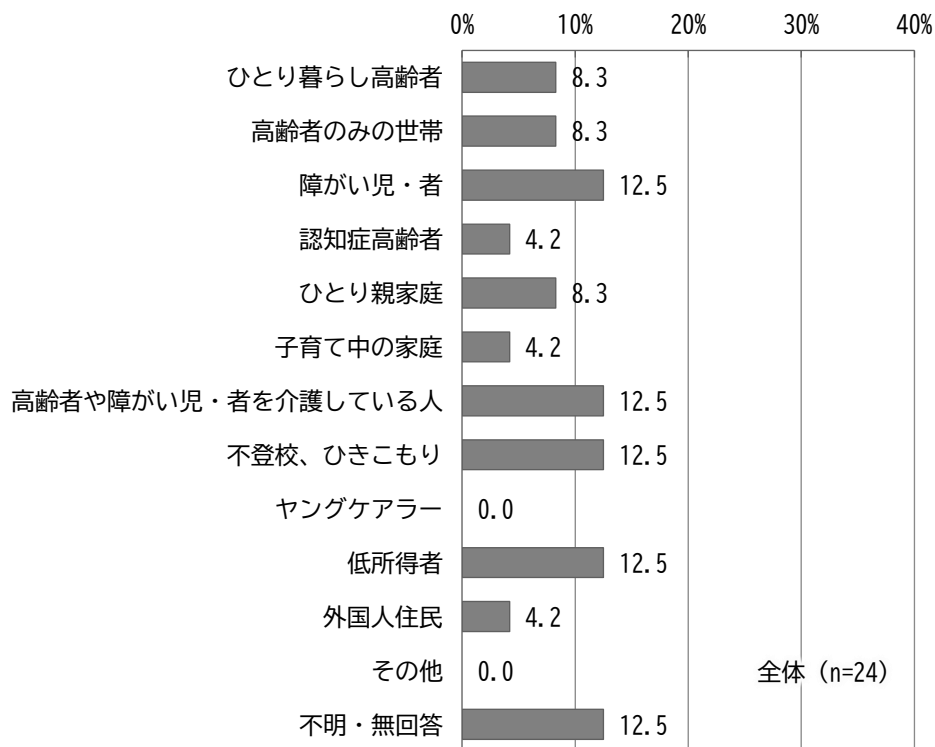
問3 | 第2位 あなたが活動する地域において、これから特に支援が必要だと思う対象は誰ですか。(単数回答)

「ひとり暮らし高齢者」が29.2%と最も高く、次いで「高齢者や障がい児・者を介護している人」が20.8%となっています。



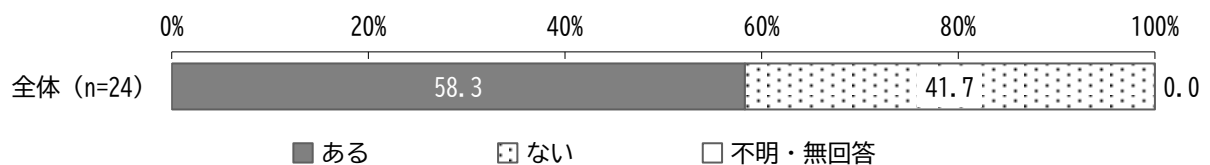
問3 | 第3位 あなたが活動する地域において、これから特に支援が必要だと思う対象は誰ですか。(単数回答)

「障がい児・者」「高齢者や障がい児・者を介護している人」「不登校、ひきこもり」「低所得者」がそれぞれ12.5%と最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者」「高齢者のみの世帯」「ひとり親家庭」がそれぞれ8.3%となっています。



問4 活動の中で、地域の困りごと等の相談を受けることがありますか。(単数回答)

「ある」が58.3%、「ない」が41.7%となっています。

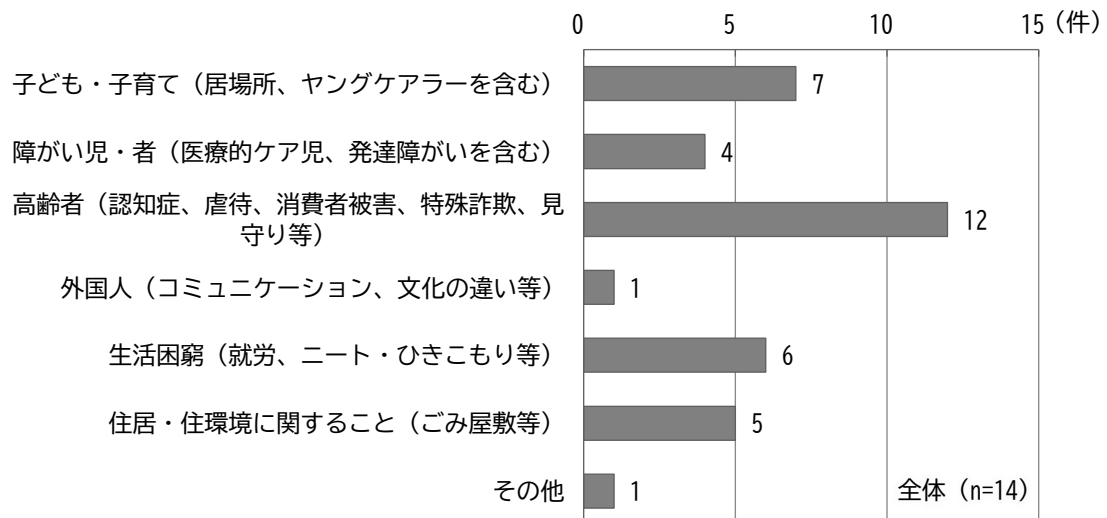


問4で「1 ある」と回答した方

問5 活動を通して経験した対応が難しいと感じた分野を選び、その具体的事例の内容をご記入ください。※「解決が難しかった課題の分野」は1つでも複数でも構いません。(複数回答)

「高齢者（認知症、虐待、消費者被害、特殊詐欺、見守り等）」が12件と最も多く、次いで「子ども・子育て（居場所、ヤングケアラーを含む）」が7件となっています。

※回答のあった件数を分野ごとに示しています。



■具体的事例（自由回答）

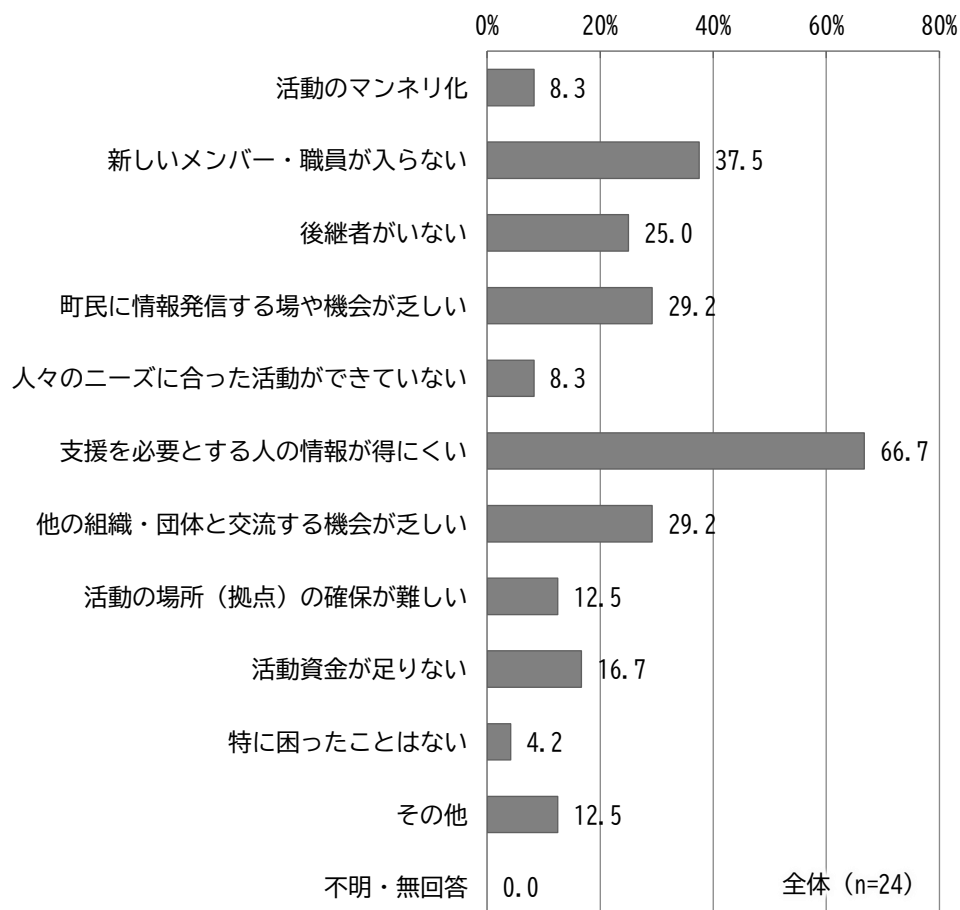
該当する分野	事例内容
子ども・子育て	町内に2団体のこども食堂があるが、実施されている学校外の子どもが来たくても巡回バスが使いにくい（特に東コース）ため、来たくても来れない。
	不登校児童・生徒が全国的に増加しており、本町も例外ではない。原因は千差万別で一筋縄ではいかず、本人へのアプローチだけでは解決できない。また、本施設だけの対応でも効果が低いので、他の関係機関との連携が必要となる。複雑に絡む体制の構築とアプローチをしていく多くの時間が必要となっている。
	フリースクールなどの参加者で東郷町民が1割ほどしかいない。情報を届ける手段がない。
	「同居の孫が不登校になりつつあるが、祖母としてどう対応するべきか」という相談があった。
障がい児・者	近隣住民とトラブルになっている精神障がいのある方への支援や未治療または治療中断した精神障がいのある方への支援、断酒意欲のないアルコール依存のある方への対応。

該当する分野	事例内容
高齢者	独居で家族の支援もあまり受けられない状況だが、本人の認知症の自覚がなく、支援に対して拒否の意識がある。
	一人暮らし高齢者宅での傾聴活動では、家の中に入れてもらうことが難しかったが、訪問の必要性を感じた。
	ボランティアスタッフに高齢者がいるが、運転できないため運転できるスタッフが乗せている。これでは運転できるスタッフに気を使うし、当事者たちもお願いしにくい。
	なかなか相談してもらえない
	父親が認知症、母親がパーキンソン病で寝たきり、娘が知的障がいと統合失調症のように、家族全員に支援が必要な家庭がある。
	少子高齢化対策として、家族代行サービスを実施しているが、行政の担当部署がなく、必要な人に手が届かない。
生活困窮	ひきこもり支援において、当事者またはその家族の回復が長期間を要するため、支援者側が支援の手詰まり感を覚えたり、疲弊したり燃え尽きたりしてしまうことがある。技術支援を受けたり、事例検討を通して、そのような状況を防ぐことが必要。
住居・住環境に関する こと	隣家からの落ち葉が飛んでくると、境界線のもめごとと、立ち木の枝が我が家の敷地に入ってきている等である。現地の調査活動はできないので、相談の解決にはならない。
	認知症の一人暮らし高齢の女性の家がゴミ屋敷でベッドは尿汚染多量であり、冷蔵庫にはハエの大群。本人は拒否が激しく帰れと怒鳴る。
その他	入院している精神的疾患のある方からの相談活動に対して、医師の判断で決めることであり、傾聴することにとどめていて解決できない。
子ども・子育て、障がい児・者	障がい及早く見つけ療育につながる方がよいという価値観が、あまり普及していないように感じる。
子ども・子育て、高齢者	支援者同士の意思の疎通が難しい。関連法規部署が違うと、課題の捉え方が違う。
子ども・子育て、住居・住環境に関する こと	劣悪な環境の中で生活をしている子どもがいる。保護者の養育能力が乏しく、様々な機関が介入を試みるが改善しない。
障がい児・者、高齢者	高齢な母親と視覚障がいの 50 代女性の世帯。2 人の関係が良好とは言えず、口論が多かった。兄弟とも関係が良好ではなく喧嘩が多かった。どこまで家族間のコミュニケーションの範疇でどこからが虐待になるのか、分からなかった。最終的に本人が転居した。
障がい児・者、高齢者、生活困窮、住居・住環境に関する こと	8050問題や9060問題の家庭で、子どもに障がいがあると疑われる世帯。虐待や生活困窮などの要因が複合的に生じている。

該当する分野	事例内容
高齢者、生活困窮	サポートや相談窓口などの情報を届ける手段が少ないこと。ご家族と当事者との関係性の部分で必要なサポートが届けられないこと。
外国人、生活困窮	祖母の家で暮らす 20 代男性がひきこもり状態である。両親との連絡ができず、方針が決めることが難しい。祖母が水道光熱費、食費等を引き受けており、経済的な負担も大きくなっている。
生活困窮、住居・住環境に関する事	生活が困窮しており、住環境が不衛生な状況である。ライフラインの確保も難しく、最低生活が営めていないが、本人は支援を求めている。

問6 活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。(複数回答)

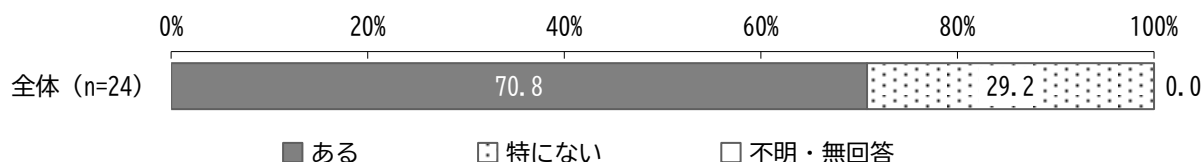
「支援を必要とする人の情報が得にくい」が66.7%と最も高く、次いで「新しいメンバー・職員が入らない」が37.5%となっています。



(2) 組織・団体との連携について

問7 貴組織・団体では、地域活動、社会貢献活動を行う上で他団体等との交流や連携はありますか。(単数回答)

「ある」が70.8%、「特にない」が29.2%となっています。



問7で「1 ある」と回答した方

■連携のある具体的な組織・団体（自由回答）

記述内容
自治会、医療機関、店（コンビニ、ドラッグストアなど）、サロン
社協やその他の社会福祉法人、NPO団体等
東尾張ブロック手話交流会に参加。聴覚障害者協会（日進、長久手、東郷、豊明）の行事に参加
福祉課、東郷町障害者相談支援センター、権利擁護センター、地域包括支援センター、こども健康課、高齢者支援課、基幹相談支援センターの各々の事業所、福祉サービス事業所、訪問介護ステーション、医療機関、社協地域福祉課・総務課など
高齢者支援課、社会福祉協議会、成年後見センターなど
東郷町での活動では特にありませんが、名古屋協議会での活動では名古屋グランパス、バスケの名古屋ドルフィンズ、三河シーホース等の連携活動はあります。
更生保護女性会
東郷町ファミリーサポートセンター、東郷町児童館
むすびえなど。あとは民間企業から食料品の支援
東郷町社会福祉協議会、日進市声の飛行船
愛知警察署、役場地域安心課
町内小・中学校、他市町の教育支援センター、町教育委員会、一部のフリースクール
東郷おさがりプロジェクト
社会福祉協議会、地域活動支援センター、居宅事務所、愛知国際病院、おりど病院、自治会、老人会、一般企業など
愛知県の子ども支援団体、近隣の子ども食堂、区・自治会、子ども会、町内の協賛企業・医院(21社)、町内外の農家・農園、東郷町社会福祉協議会、東郷町役場(子育て応援課)
精神科医療機関、消防、警察、各市町障害者基幹相談支援センター、各市町福祉及び健康支援担当課、断酒会、AA、ひきこもり家族会、精神障害者家族会など
社協の他部署、町内と近隣市町の障害福祉サービス事業所、ハローワーク、にじいろの会など

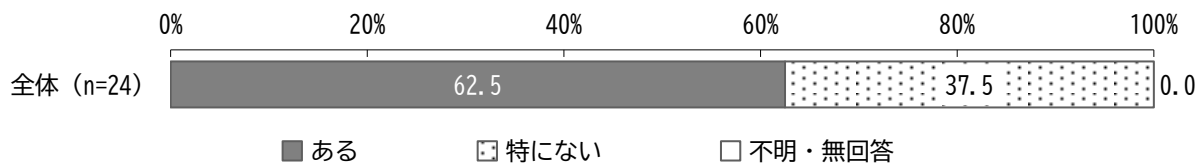
問7で「1 ある」と回答した方

問8 他組織・団体等と連携して、どのような取り組みを行っていますか。(自由記述)

記述内容
支援を必要とする人の情報収集。認知症の理解（認サボ開催のお願い）。
イベントなどで活動や役割などの報告をしてもらう。
行事、会合に参加して交流。
事例に対応する際の協力、連携した支援体制づくりなど。
高齢者の実態把握、虐待対応。
人権啓発活動を行っています。
合同研修会、活動の補助
ファミリーサポートセンター：年に2回、夏祭りとクリスマス会の連携（工作、ゲーム担当）
児童館：町全児童館親子行事のサポート
支援品をもらっています。（お菓子やパン、フードドライブ）
社協：小・中学校での福祉実践教室やボランティア集会等に協力、参加
声の飛行船：デイジー録音図書を通じて東郷・日進の視覚障害者の交流
合同パトロール
情報交換とそれによる連携と対応
マルシェに出店してもらう予定、子育て世帯への周知など。
生活サポートや身元保証などでの連携
子ども食堂運営についての交流会、廃棄食品・食材の有効活用、協賛企業による運営資金の確保など。
支援が必要な当事者の課題解決に向けた情報共有や支援の分担など
自立支援協議会や行事の開催。（就労説明会や講演会、研修等の開催）

問9 今後、地域活動の中で連携をとりたい組織・団体はありますか。(単数回答)

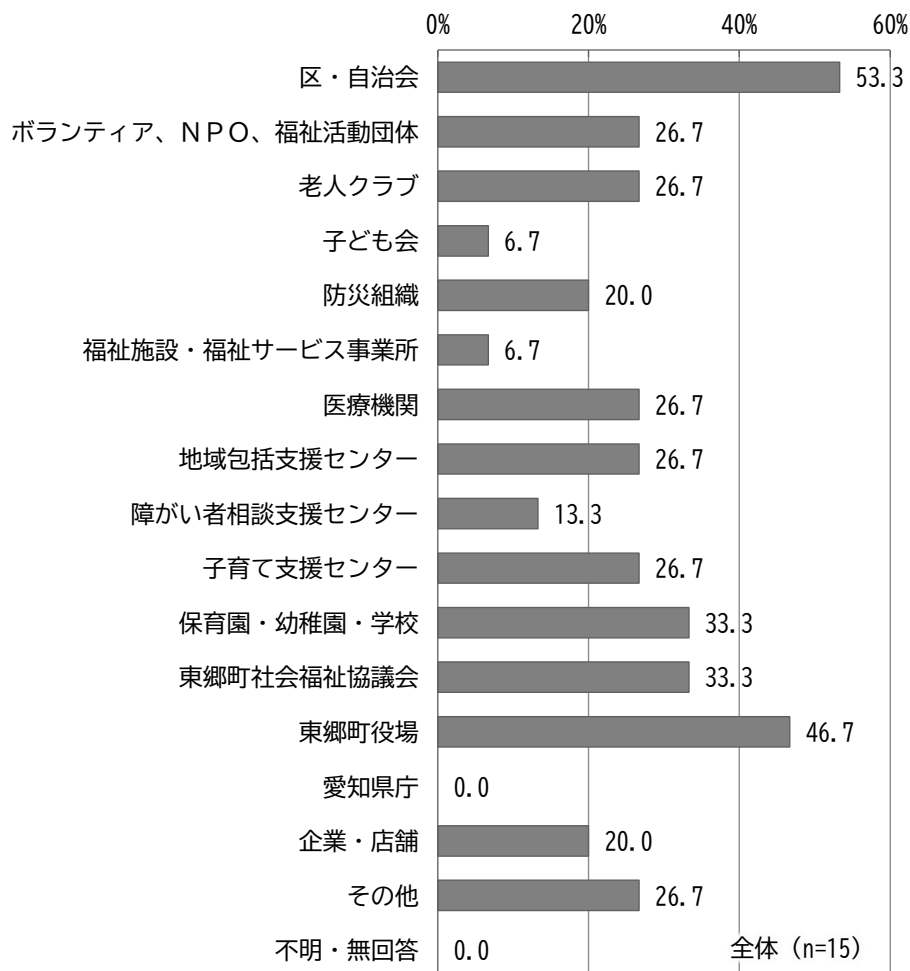
「ある」が62.5%、「特にない」が37.5%となっています。



問9で「1 ある」と回答した方

問10 これから連携していきたい組織・団体は次のうちどれですか。(複数回答)

「区・自治会」が53.3%と最も高く、次いで「東郷町役場」が46.7%となっています。



■組織・団体と連携をしたいと思った理由

連携した組織・団体	記述内容
その他	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築のための重要な構成員であり、当事者の参画なしで施策を推進することは不十分であるため。
区・自治会、ボランティア、NPO、福祉活動団体、老人クラブ、東郷町社会福祉協議会、東郷町役場	高齢者の在宅生活支援について
区・自治会、ボランティア、NPO、福祉活動団体、老人クラブ、子ども会、子育て支援センター、保育園・幼稚園・学校、企業・店舗	情報発信や自社でできないサポートでの連携が可能になる。

連携した組織・団体	記述内容
区・自治会、ボランティア、NPO、福祉活動団体、防災組織、医療機関、地域包括支援センター、東郷町社会福祉協議会、東郷町役場	障がい者の防災活動が進んでないので、少しでも進めたい。研修や行事を開催するときに幅を広げたい。
区・自治会、老人クラブ、子育て支援センター、その他	1：啓発活動の拠点として 3：当会を理解して知ってもらい地域住民の協力 10：子育て支援として 16：啓発活動の協働
区・自治会、老人クラブ、企業・店舗、その他	支援を必要とする人の情報収集。
子育て支援センター、保育園・幼稚園・学校	虐待ケースで、世帯に子どもがいる場合、情報共有が必要なため。開業医の医師との連携（在宅医）。今後、集まりのない高齢者が増加する。家族がいなくても必要な医療が受けられる体制づくりが必要。（簡単に身元保証サービス団体につながらない）
保育園・幼稚園・学校、企業・店舗	11：SNSの普及により、中学生・高校生に対する人権被害も発生し、増加傾向です。SNS利用のメリットと大きなリスクの存在を周知したいと思います。 15：法務省の方針として、「ビジネスと人権」に係る人権デューデリエンスの教育・研修を、企業と連携して推進することが求められており、地道に展開していきたい。
防災組織、保育園・幼稚園・学校	5：避難所でのお手伝い。 11：手話を広めて聴覚障がいについて関心を持ってもらう。
医療機関、その他	16：不登校児童・生徒それぞれにとっての居場所が、多くの選択肢の中から選べるようになることが望ましいから。 7：また、本人の特性による的確な接し方や投薬による治療法が必要になる場合もあるから。

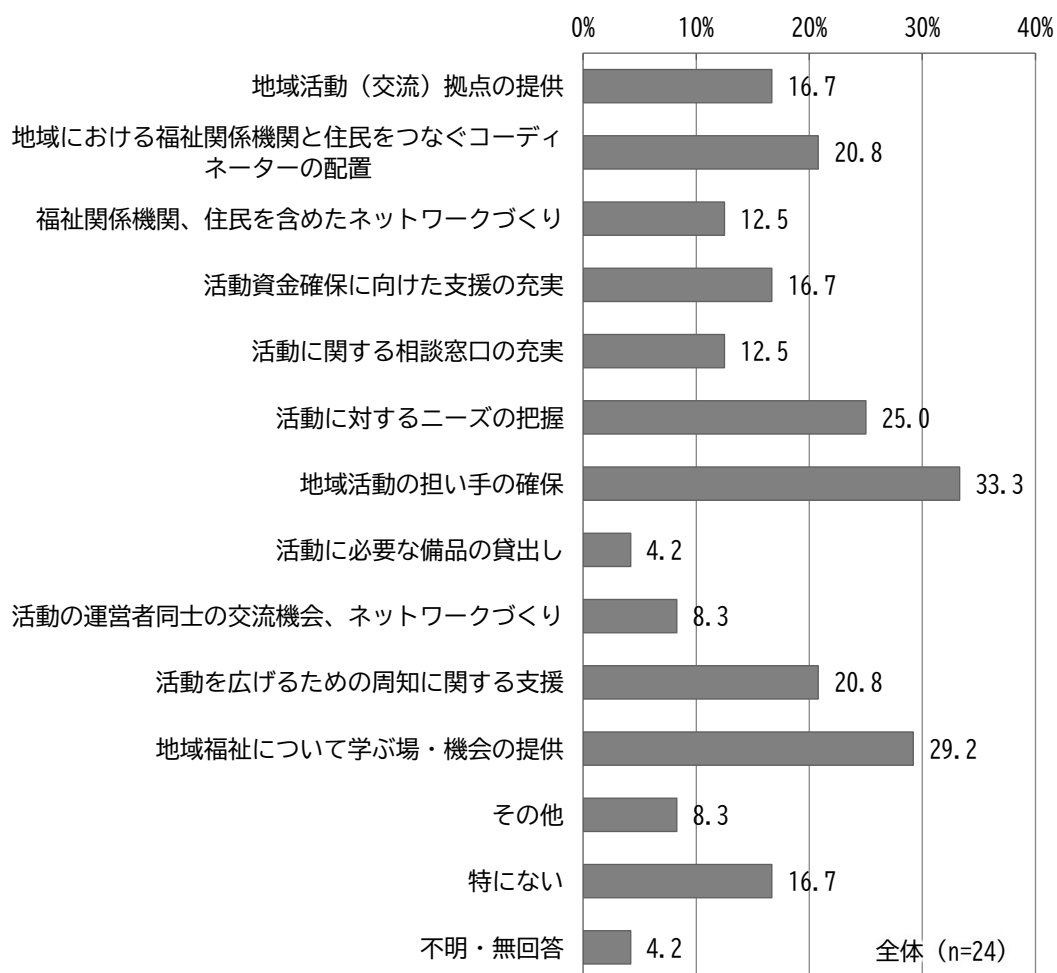
問 11 他の組織・団体と連携しようとするうえで困っていることがあれば教えてください。
(自由記述)

記述内容
地域包括支援センター業務の理解が不足。
他の団体と交流し、情報が入ると良い。(例：料理教室に参加して交流を深める)
連携をお願いした支援機関さんから協力が得られなかったことはないのですが、いつも本当に助けられています。
他の組織・団体と連携する上で、お互いに情報共有することが大切ではありますが、その情報共有するための言葉の選択・使い方が非常に難しいと思います。
東郷町役場の担当部署と協力し合っていきたい。
前向きに活動するのみ。
自主防犯パトロール隊は地域の防犯が主目的で、福祉活動は二次的であり、他の団体とはなじみにくい。
本施設の運営時間はあるが、連携のための時間が空いてもあることなので、確保できないことがない。
個人情報保護を厳守しながら他機関と情報共有することが難しい。
お互いの活動をフラットに知る機会が必要。共通の困り事や未来を見据えて話す場などがあれば良いと感じる。
お互いの組織・団体の役割（できること・できないこと）を相互に理解しながら支援の連携を図っていくこと。

（３）今後の地域福祉について

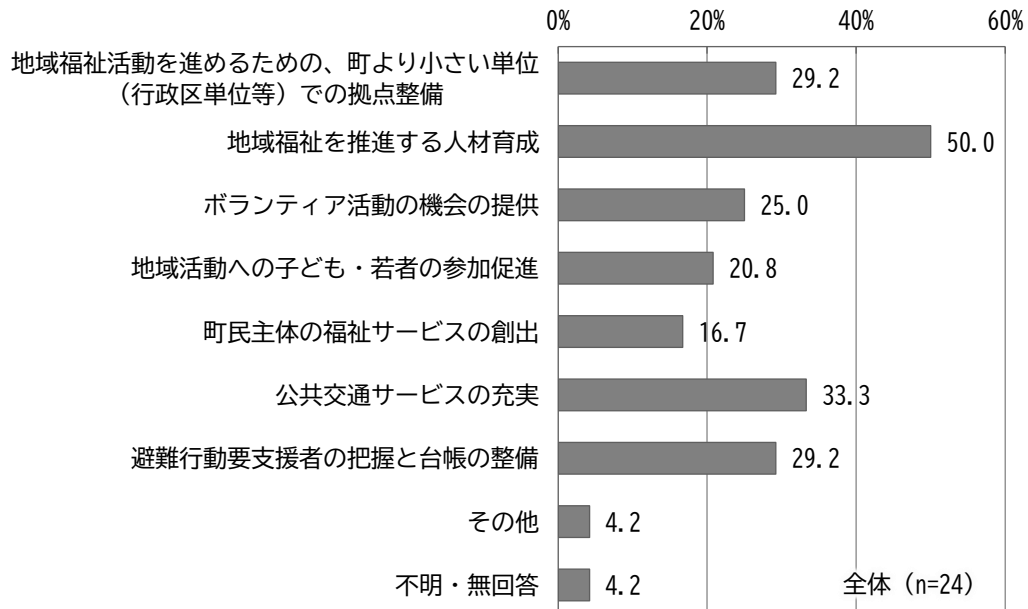
問 12 今行っている活動について、今後、町社会福祉協議会に支援してほしいことは何ですか。（複数回答）

「地域活動の担い手の確保」が 33.3%と最も高く、次いで「地域福祉について学ぶ場・機会の提供」が 29.2%となっています。



問 13 次の取組のうち、今後、行政（町）で重点的に進めるべきだと思うものはどれですか。（複数回答）

「地域福祉を推進する人材育成」が 50.0%と最も高く、次いで「公共交通サービスの充実」が 33.3%となっています。



問 14 今後、行政との協働でどのようなことに取り組めると思いますか。（自由記述）

記述内容
避難訓練に障がい者は参加しにくいと思う。障がい者も参加できるように呼びかけが必要。例1：各障がい者団体に働きかけて、お互いの意見交換をする会合を設ける。例2：避難訓練に参加してもらい、避難所の生活を体験（車いすの人がトイレを使えるのか？聴覚障がい者に情報が伝わるのか？など）。
地域におけるネットワークの構築の連携による高齢者の支援。
気軽に困りごと等の相談ができる場所があると、困りごとのある方と接しやすくなると思います。
在宅で傾聴を必要とする方の情報がもらえればと思う。
今の活動に、行政は充分に取り組んでくれています。ありがとうございます。
行政と連携があることにより、住民たちへの信頼度も上がり、安心感につながると思う。コミュニティスクールが導入され、一役買えると思う。行政にはいろいろな課があるので（今お世話になっているのは産業振興課と子育て応援課）、学校教育課や高齢者に関する課とつながりを持てば対象者にとって相談しやすく問題も浮き彫りになって、課題が見つかるのではと思う。
障がいについて理解を深めるために、当団体で協力できることがあれば協力したい（視覚障がい者）。
コミュニティセンターの活動も担い手の高齢化でだんだん難しくなっている。地域の若い人の関心が薄く、いかに住民の協力が得られるかが第一だと思う。行政の方からも対策が必要かと思う。
町との協働などで、もっといこまい館や、町民活動センターをもっと広くいろんな方が有意義に使えるように、日進市のにぎわい交流館のような場ができれば良い。
一人暮らし高齢者の身元保証問題。
支援を必要とする子ども達に、子ども食堂や学習支援(来年から無料塾を開催予定)に優先的に参加してもらえるような仕組みづくりができると嬉しいです。
障がい者と地域住民が共に参加できる交流の場を提供してほしい（スポーツイベントや防災訓練など）。ひきこもりやなんとなく家に居づらい方が気軽に利用できる居場所づくりが必要である。町内、近隣の駅までの交通網を整備してほしい。相談支援事業所を誘致してほしい。就労関係の窓口の開設してほしい（最近相談したいと来られる方が増えている）。

問 15 地域福祉の推進についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。(自由記述)

記述内容
最近、デイサービス等の施設が増えてきているように思うが、内容がよくわからない。どこの施設にはどんな特徴があるか、どんなことをやっているのか知りたい。
人員に余裕がない中で、支援業務が多様化、増加しています。なかなか、充実や深めていくことに時間を割けない状況に苦慮しています。
相談事に対応した場合に、なるべく早く回答してもらえ（問題事にもよりますが）窓口があると良いと思います。
社会における家庭の孤立。家庭における個人の孤立を避けることが犯罪発生の減少につながると思います。孤立する側の言い分を聞くことは難しいのですが、常に手を差し伸べ、見守ることが大切と考えます。
傾聴の養成講座を行い、ボランティアの活動をしていただく方を増やしたいが、講師の選出、依頼費用面等の援助があればよいと思う。
高齢化社会に向け、車での移動が困難になったときの対応を切にお願いします。
じゅんかい君の再編について、免許を持たない子どもや免許返納をした高齢者は特に外出の機会を失います。子ども食堂を始めた際、自治会長に近所に食べる所もなくひきこもりがちになるので、子どもだけでなく高齢者も対象にしてほしいと懇願され、利用してもらっています。実際、利用される高齢者から「月1回、これを楽しみにしている」「出かける用事ができた」との声もあり、子どもからも「また来たい」、来ていない子からは「行ってみたい」との声がありました。子育て中の親からは、「ゆっくりご飯が食べられ、子どもたちも遊べるので助かります。」と言ってもらいました。でも、それは近所の人か車に乗れる人だけであり、交通弱者でも気軽に東郷町を行き来できると嬉しいです。
視覚障がい者の情報入手やボランティアで参加する方の情報がなく、困っている（今までは会員が徐々に減少）。
課題は多岐に渡り、福祉サービス一つだけで解決できないことも増えているのでは、と感じる。例えば子育て世帯が介護や障がい児の対応と、もしかしたら貧困も絡んでいるかもしれない、など。また、子どもたちの不登校には何かしらの発達障がいもかかわっているかもしれないが、それが見過ごされていたり、学校と家庭にしか居場所がない子どもたちがすごく狭い世界で苦しんでおり、一度落ちてしまったら、なかなか今の価値観では元のレールに戻れない。戻す必要もないかもしれないが、そういう「そのままでもいい」ことや、やる気を出した時に支援できる環境が必要である。勉強以外にも大切なことを学ぶ場所や安心できる居場所が、学校と家庭、塾以外のアクセスしやすい町内にあるとよいと考える。
東郷町社会福祉協議会に、もっと地域に入って問題意識を持って動いてほしい。
本当に支援が必要な人は情報収集力が著しく乏しく、必要な支援ができないので、公に近い組織や団体からの情報発信をお願いしたい。